



「教育課程表（カリキュラム表）」の見方

教養課程および専門教育課程において開講されている科目は、教育課程表（カリキュラム表）で確認できます。この課程表の中から自分が必要とする科目を選びましょう。なお、教育課程表（カリキュラム表）には、科目以外にも、次のことが書かれています。学習を開始する前に必ず一読し、学習の道筋をつけましょう。

- 1 卒業に必要な条件（卒業所要単位）
- 2 学習を開始できる最低学年（履修学年）
- 3 科目構成単位
- 4 必ず履修する必要がある科目（必修科目）や、自由に選択できる科目（選択科目）などの科目区分

≫ p.48 「教育課程表（カリキュラム表）」 ≫ p.70 「進級要件」

[サンプル]

卒業所要単位

卒業するために必要な単位とその内訳を記載しています。各区分の開講科目の詳細は下表で確認しましょう。

一般教育	36単位	人文分野	8単位以上
		社会分野	8単位以上
		自然分野	8単位以上
外国語	1外国語4単位（うちスクーリング2単位以上）		
保健体育	2単位		
合計	42単位		

一般教育科目

履修学年	区分	分野	授業科目	構成単位	卒業所要単位
1~	選択必修	人文	文学	4	8単位以上
			西洋史	4	
			日本史	4	
			哲学	4	
			東洋史	4	
			論理学	4	
		社会	法学（日本国憲法）	2	8単位以上
			法学	2	
			経済学	4	
			人文地理学	4	
			自然地理学	4	
			政治学概論	4	
		自然	社会学	4	8単位以上
			文化人類学	4	
			心理学	4	
			数学1	2	
			数学2	2	
			数学3 ㊦	2	
1~	選択	自然	生物学1	2	8単位以上
			生物学2 ㊦	2	
			生物学3 ㊦	2	
			化学1	2	
			化学2	2	
			化学3 ㊦	2	
		その他	物理学1	2	4単位まで履修可
			物理学2	2	
			物理学3 ㊦	2	
			基礎特講 ㊦	2	
			放送大学単位認定科目		10単位まで認定可

㊦はスクーリングのみの開講科目
㊦はメディアスクーリングのみの開講科目

(注) 表中の色文字は通教テキスト使用科目（通信学習時）

履修学年

履修を開始できる学年を表します。記載された学年以上であれば履修できます。

構成単位

科目の構成単位を満たすと、卒業所要単位に算入されます。構成単位が4単位の科目については、スクーリングで2単位を修得しただけでは、原則として卒業所要単位には算入されません。

区分

各区分の違いについては ≫ p.46 「2 授業科目の種類」で確認しましょう。

！注意

卒業所要単位への算入およびその他単位修得における注意事項は、教育課程表（カリキュラム表）に併記されている注意点で確認しましょう。

実際に学習できる科目について具体的に見てみましょう。
ここでは、科目を選択する際に参照するカリキュラムとシラバスについて説明します。
学習できる科目を確認したら、学習科目と学習方法を決めましょう。



シラバスで各科目の 学習内容を確認

教育課程表（カリキュラム表）で開講科目や卒業に必要な単位数などを確認したら、シラバスを見ながらさっそく学習する科目を決めましょう。

シラバスとは？

その科目の到達目標や学習内容、成績評価基準や指定テキストについて記載した補助教材です。これを見れば、その科目で学ぶ内容を理解することができます。



通信学習科目

『通信学習シラバス・設題総覧2020』を参照。≫ ■■ [通信学習シラバス・設題総覧 2020](#)

※法政大学Webシラバスからも閲覧可能です。https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php



スクーリング学習科目

開講時期に合わせて法政大学Webシラバス、『法政通信』に掲載します。≫ ■■ [法政通信](#)



学習方法を選択

興味がある科目について、①通信学習、②スクーリング学習のどちらで学習するかを選択し、学習を開始しましょう。
スクーリングで開講する科目は毎年異なります。



通信学習

通信学習では、事前に学習する科目を大学に登録する、いわゆる「履修登録」の制度はありません（科目等履修生・一部の教職課程科目などを除く）。履修科目を決めたら、さっそく学習を開始しましょう。

≫ p.18 「通信学習の進め方」

通信学習が可能な科目を確認しよう

≫ p.48 「教育課程表（カリキュラム表）」

≫ ■■ [通信学習シラバス・設題総覧 2020](#) に掲載された科目



スクーリング学習

『法政通信』に掲載される手続き期間内に履修申請、受講料の振り込みを行う必要があります。

科目によっては定員が定められており、定員を超える申請があった場合は抽選になる科目もあります。

≫ p.20 「スクーリング学習の進め方」

スクーリング学習が可能な科目を確認しよう

≫ p.48 「教育課程表（カリキュラム表）」

≫ ■■ [法政通信](#) 3、4月号に掲載される「2020年度スクーリング開講予定一覧」掲載科目

≫ ■■ [法政通信](#) 開講時期に合わせて掲載される各スクーリングのお知らせ

≫ p.146 「2 Web学習サービス」

※スクーリング学習でのみ学習できる科目およびメディアスクーリング学習でのみ学習できる科目は、教育課程表（カリキュラム表）で確認できます。

授業科目と教育課程（カリキュラム）

1 教養課程と専門教育課程

教養課程	幅広い分野の基礎的な教養を修得するために設けられているカリキュラムで、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目で構成されています。1・2年次で中心的に学習します。
専門教育課程	専門的な知識や技能を体系的に修得するために設けられているカリキュラムです。この専門知識の集大成として、卒業論文があります（文学部では必修科目、法学部・経済学部では選択科目となります）。

2 授業科目の種類

- 授業科目は以下に分類されます。履修する際はその違いを理解し、教育課程表（カリキュラム表）にしたがって学習を積み重ねてください。

必修科目	・必ず修得しなければならない科目です。
選択必修科目・スクーリング選択必修科目	・設置科目の中から条件を満たすように選択して履修する必要がある科目です。 ・各科目群の中から卒業要件を満たすように履修します。
選択科目	・自由に選択して履修できる科目です。 ・科目群の中から卒業要件を満たすように履修します。
スクーリング必修科目	・必ずスクーリング学習で修得しなければならない科目です。
公開科目	・学部学科を問わず履修できる専門教育課程の選択科目です。 ・開講科目によって履修学年が異なる場合があります。 ・8科目16単位まで卒業所要単位として履修できます（開講科目によって履修回数が異なる場合があります）。 ※「公開科目」の開講はスクーリングのみです。「公開科目」として開講される科目は、『法政通信』記載の各スクーリング時間割を確認してください（主に、地方・メディア・週末・ゴールデンウィークスクーリングでの開講となります）。

- ※ 「履修・成績通知書」における「教職専門科目」「教科専門科目」は、教員免許に関する科目の分類です。卒業所要単位には算入されません。
- ※ 「履修・成績通知書」における「その他専門科目」は、以前の学籍とは異なる学科に復籍・再入学した際に以前の学籍で修得した科目や資格課程科目などの分類です。卒業所要単位には算入されません。

3 科目構成単位

- 開講科目に付されている単位を「科目構成単位」といいます。原則として、「科目構成単位」を満たすように学習をすすめます。科目構成単位の充足方法については【▶▶ p.33】を参照してください。
- 各科目の単位は、構成単位を満たして修得するまで、原則として卒業所要単位に算入されません。
- 原則として、科目構成単位を満たした科目は再履修できません。詳細は、教養課程および各学科の専門教育課程の教育課程表（カリキュラム表）に併記されている注意点を確認してください。

chapter 1

単位
修得に
ついて

chapter 2

教材に
ついて

chapter 3

学部・
学科

chapter 4

教員免
許状・
資格取
得

chapter 5

学習
方法

chapter 6

学習環
境・サ
ポート
制度

chapter 7

学籍・
学費・
手続き

chapter 8

各種
資料

chapter 9

申請・
届出用
紙

教育課程表（カリキュラム表）

1 教養課程（全学部学科共通）

一般教育	36単位	人文分野	8単位以上
		社会分野	8単位以上
		自然分野	8単位以上
外国語	1外国語4単位（うちスクーリング2単位以上）		
保健体育	2単位		
合計			42単位

一般教育科目

履修学年	区分	分野	授業科目	構成単位	卒業所要単位
1～	選択必修	人文	文学	4	8単位以上
			西洋史	4	
			日本史	4	
			哲学	4	
			東洋史	4	
			論理学	4	
		社会	法学（日本国憲法）	2	8単位以上
			法学	2	
			経済学	4	
			人文地理学	4	
			自然地理学	4	
			政治学概論	4	
			社会学	4	
			文化人類学	4	
			心理学	4	
		自然	数学1	2	8単位以上
			数学2	2	
			数学3 ㊟	2	
			生物学1	2	
			生物学2 ㊟	2	
			生物学3 ㊟	2	
			化学1	2	
			化学2	2	
			化学3 ㊟	2	
			物理学1	2	
			物理学2	2	
			物理学3 ㊟	2	
	選択	その他	基礎特講 ㊟	2	4単位まで履修可
			放送大学単位認定科目		10単位まで認定可

㊟はスクーリングのみの開講科目

㊟はメディアスクーリングのみの開講科目

（注）表中の色文字は通教テキスト使用科目（通信学習時）

外国語科目

履修学年	区分	種類	授業科目	構成単位	卒業所要単位
1～	選択必修	英語	英語2	2	いずれか1外国語4単位 (うちスクーリング2単位以上 (1単位×2)を含む)
			英語3	2	
			英語S ⑤*	1	
		独語	独語1	2	
			独語S ⑤*	1	
		仏語	仏語1	2	
			仏語S ⑤*	1	

⑤はスクーリングのみの開講科目

※複数回の受講が可能

保健体育科目

履修学年	区分	授業科目	構成単位	卒業所要単位
1～	選択必修	健康・スポーツ科学概論	2	いずれか1科目2単位
		スポーツ総合演習 ⑤	2	

⑤はスクーリングのみの開講科目

教育課程表（カリキュラム表）の注意点

- a. 科目構成単位を満たした科目は原則として再履修できません。
- b. 一般教育科目
 - ▽人文・社会・自然の3分野からそれぞれ8単位以上を選択し、全体で36単位となるように履修してください。
 - ▽36単位を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれません。
 - ▽「基礎特講」は、2回4単位まで卒業所要単位として履修できます。
 - ▽放送大学で修得した単位（外国語科目と保健体育科目を除く）を最大10単位まで、その他分野の単位として認定します（[>>> p.140 「放送大学での修得単位の認定」] 参照）。
 - ▽自然分野について、2012年度以前カリキュラム設置科目の科目構成単位を充足済みであっても、2013年度以降カリキュラム設置の同種科目を履修できます。ただし、メディアスクーリングで修得した場合、同一科目を再度メディアスクーリングで履修することはできません。
 - また、自然分野の卒業要件（8単位以上修得）の判定においては、1つの授業科目種別につき、6単位まで有効とします（例：「数学」（4単位）「数学1～3」（各2単位）をすべて（計10単位）修得した場合、自然分野としては、6単位まで有効とする。一般教育科目合計としては、10単位すべて有効とする）。
- c. 外国語科目
 - ▽英語・独語・仏語のうち、いずれか1外国語を選択し、スクーリング修得単位2単位以上を含み4単位となるよう履修してください。4単位すべてをスクーリングで修得することも可能です。
 - ▽上記要件を満たした外国語と同一外国語を再履修することはできません。
 - ▽2外国語以上履修しても、1外国語までしか卒業所要単位に含まれません。
 - ▽1外国語4単位を超えて修得した単位は卒業所要単位に含まれません。
- d. 保健体育科目
 - ▽「健康・スポーツ科学概論」または「スポーツ総合演習」のいずれか2単位が必修です。
 - ▽2単位を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれません。
- e. すでに卒業所要単位を充足済み（3年次編入学および学士入学時に「認定」・「免除」された単位を含む）の場合は、単位を修得しても卒業所要単位に算入されません（スクーリング修得単位にのみ算入されます）。
- f. 3年次編入学および学士入学において、「認定」・「免除」された科目を通信学習で履修する場合は、科目登録および科目登録料の振り込み（1単位あたり3,000円）が必要です。詳細は各学部担当までお問い合わせください。
- g. 2013年4月からのカリキュラム変更に伴う措置については、Web学習サービス [>>> p.146] および [>>> p.64 「3 2013年度からの変更点（抜粋）」] を参照してください。

8. 経済学部商業学科

選択必修	20単位以上	82単位
選択	卒業論文を含む	
合計		82単位

選択必修科目

履修学年		授業科目	構成単位
1～		簿記Ⅰ	2
		簿記Ⅱ	2
		経営学総論Ⅰ	2
		経営学総論Ⅱ	2
2～		経営管理論Ⅰ	2
		経営管理論Ⅱ	2
		金融論Ⅰ	2
		金融論Ⅱ	2
		簿記Ⅲ	2
		簿記Ⅳ	2
③	1～	経済学入門Ⅰ	2
		経済学入門Ⅱ	2
	2～	会計学入門Ⅰ	2
		会計学入門Ⅱ	2
		経営戦略論Ⅰ※ ¹	2
		経営戦略論Ⅱ※ ¹	2
		マーケティング論Ⅰ	2
		マーケティング論Ⅱ	2

③はスクーリングのみの開講科目

③はメディアスクーリングのみの開講科目

※1 2020年度は開講しません。

選択科目

履修学年	授業科目	構成単位	
3～	人的資源管理論Ⅰ	2	
	人的資源管理論Ⅱ	2	
	財務会計論Ⅰ	2	
	財務会計論Ⅱ	2	
	原価計算論Ⅰ	2	
	原価計算論Ⅱ	2	
	管理会計論Ⅰ	2	
	管理会計論Ⅱ	2	
	監査論Ⅰ	2	
	監査論Ⅱ	2	
	税務会計Ⅰ	2	
	税務会計Ⅱ	2	
	経営分析論Ⅰ	2	
	経営分析論Ⅱ	2	
	国際金融論Ⅰ	2	
	国際金融論Ⅱ	2	
	社会経済学Ⅰ	2	
	社会経済学Ⅱ	2	
	経済史Ⅰ	2	
	経済史Ⅱ	2	
	統計学Ⅰ	2	
	統計学Ⅱ	2	
	財政学Ⅰ	2	
	財政学Ⅱ	2	
	経済政策論Ⅰ	2	
	経済政策論Ⅱ	2	
	日本経済論Ⅰ	2	
	日本経済論Ⅱ	2	
	憲法	4	
	民法一部（総則・物権法）	4	
	民法二部（債権法）	4	
	商法総則・商行為法	4	
	会社法	4	
	手形法・小切手法	4	
	労働法	4	
	社会思想史	4	
	経済地理	4	
4	卒業論文	6	
⑤	1～	総合特講	2
	2～	経済学特講	2
		経営学特講	2
		情報科学実習	2
		総合外国語特講	2
		スポーツ特講	2
	3～	(他学部・他学科公開科目)	2
演習		2	
③		経営組織論	2
	事業創造論	2	
	日本経営論	2	
	ファイナンス論Ⅰ	2	
	ファイナンス論Ⅱ	2	
	消費者行動論	2	
	広告論	2	
	現代経済学Ⅰ	2	
	現代経済学Ⅱ	2	
	マクロ経済学Ⅰ	2	
	マクロ経済学Ⅱ	2	
	国際経済論Ⅰ	2	
	国際経済論Ⅱ	2	
	環境経済論Ⅰ	2	
	環境経済論Ⅱ	2	

(注) 表中の色文字は通教テキスト使用科目（通信学習時）

教育課程表（カリキュラム表）の注意点

- a. 科目構成単位を満たして修得しなければ卒業所要単位にはなりません。また、科目構成単位を満たした科目は原則として再履修できません。
- b. 選択必修科目を、卒業要件の20単位を超えて修得した場合は、選択科目の卒業所要単位として算入します。
- c. 「卒業論文」を受講する場合は、事前の指導が必要です（卒業論文計画書指導、卒業論文中間報告書指導）。詳細は [>>> p.83] を参照してください。
- d. 「経済学特講」は4回8単位まで卒業所要単位として履修できます。
- e. 「経営学特講」は8回16単位まで卒業所要単位として履修できます。
- f. 「総合特講」は8回16単位まで卒業所要単位として履修できます。
- g. 「（他学部・他学科公開科目）」は8回16単位まで卒業所要単位として履修できます。
「公開科目」として開講する場合は、各スクーリング時間割にて発表します（主に地方・メディア・週末・ゴールデンウィークスクーリングでの開講となります）。
- h. 「演習」は2012年度以前設置科目「経営学演習」を含めて2回4単位まで卒業所要単位として履修できます。
- i. 今後、メディアスクーリングの開講科目を順次増やす予定です。
また、現在開講している科目であっても将来的にメディアスクーリングのみで開講する場合があります。
- j. 「（他学部・他学科公開科目）」は、開講科目によって履修学年・履修回数が異なる場合があります。
詳細は『法政通信』を参照してください。
- k. 2013年4月からのカリキュラム変更に伴う措置については、Web学習サービス [>>> p.146] および [>>> p.64 「3 2013年度からの変更点（抜粋）」] を参照してください。

※カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーは以下のWebサイトから確認できます。

<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/business/subject/cultural.html>

chapter 1

単位修得に

chapter 2

教材について

chapter 3

学部・学科

chapter 4

教員免許状・資格取得

chapter 5

学習方法

chapter 6

学習環境・サポーター制度

chapter 7

学籍・学費・諸手続き

chapter 8

各種資料

chapter 9

申請・届出用紙